



第 21 回 やまなし留学生スピーチコンテスト報告 胡 晨さん3位入賞！

特定非営利活動法人大学コンソーシアムやまなし・やまなし留学生スピーチコンテスト実行委員会主催の「第 21 回 やまなし留学生スピーチコンテスト」が、2024 年 12 月 7 日（土）に開催されました。

今年度のテーマは「将来の私」でした。山梨県内の 6 大学に在籍する中国，韓国，ベトナム，カナダ，オーストラリア，カンボジア，フィリピン，メキシコ，台湾，マレーシア，モンゴル，インド，タイからの留学生 24 名が参加し、5 分以内の日本語のスピーチを行い、日本語能力，表現力，構成力，発想力，論理的思考力を競い合いました。

本学からは、胡 晨さんが参加し、一軒の空き家からスタートさせた日本での生活と中国のことわざ「枯木逢春（古びた木々に花が咲く）」を引用しながら、ドキュメンタリー映画監督になる夢を情景豊かにスピーチしました。そして、見事 3 位入賞を果たしました！

審査員からは「スピーチを聞いているだけで、1 つのドキュメンタリー映画を見ているかのような感じ。スピーチ内でため息をつく場面もあったが、それも演出かと思うほどだった！」との言葉をいただきました。

また、スピーチ終了後には交流事業としてあやとりが行われ、参加者の親睦が深められました。

胡 晨さんは「審査員の講評を聞いて、私がドキュメンタリー映画監督になるという夢に自信を持たせてくれました。先生方の指導のもとでスピーチを完成させ、また、参加者として他国の留学生と交流できたことは本当に嬉しかったです。皆さんの支援と励ましに感謝しています。」と、スピーチコンテストを終えての感想を述べてくれました。

胡 晨さん、3 位入賞本当におめでとうございます！



▼スピーチ原稿

「古びた木々に花が咲く」 胡 晨（身延山大学仏教学部仏教学科 1 年）

皆さん、こんにちは。

私は古びたものが好きです。

谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』の中で「古びる」ことの美しさ、浮世絵の風物、映画『歩いて

も 歩いて』では、家族の繋がる情感……

二年前の春が終わるころ、私は高校時代から文章や映像を通して憧れていた歴史のある国、日本に来ました。私はドキュメンタリー映画監督になります。人々の暮らしや記憶を記録したいと思っています。

こうして、私は身延山大学の文学・芸術専攻を選び、現在、この夢に向かって進んでいます。

今年の三月、ある方が一軒の空き家を私に譲ってくれ、まだ使える家具や食器、文房具を残してくれました。さらに何十年もの生活の痕跡も。

この家は、屋根は雨漏りし、畳は荒れ、床は沈んでしまい、庭は雑草だらけだ。でも、壁には名画『落穂拾い』がかかって、手作りの神棚もある。押し入れには、お茶道具と白梅の線香がしまっており、部屋の片隅には火鉢も残されていました。

これは私が今までに経験したことのない生活で、映画でしか見たことのない景色です！

そんな中、以前この家で過ごした方々の記憶が、まるで津波のように私を飲み込みました。

おじいさん、おばあさんに送った孫の手紙、柱に子供の身長を刻んだ跡、埃だらけの新聞の切れ端……それは紙屑ではなく、切り取られた美術作品の写真でした。

大切に保管されていたすべての物たち。今、この空き家に眠っているんです。前の家主であった夫婦は、もうこの世にはいません。時間よ、どうして流れ、こんな愛情が満ちる物を古びさせてしまうのですか？ どうして、記憶を薄めてしまうのですか？ どうしてこんなに残酷なの……

こうして、古い物の物語だけでなく、「喪失」、「離別」、そして「死」という生命の重さを感じました。それ以来、私は重い気持ちで、残された物を片付けようと思いました。でも手をつけるたびに、重い記憶に圧倒され、途中でやめなければならない。

でもある日、隣に住んでいるおばあさんが来ました。彼女は髪が紫で、とても綺麗な人です。草取りのやり方を教えてくれ、自分でやった玉ねぎを持ってきてくれました。

「これはイワヒバですよ。枯れていないよ。雨が降ればわかるわ。」

彼女の親切な笑顔を見て、明るい声を聞いて、育てた野菜を味わい、私は自分で作った料理も持って訪ねるようになりました。

少しずつ気持ちが楽になった。

彼女のおかげで、庭を片付けました。そして気づいたのは、庭は決して「雑草だらけ」ではなかったこと。アヤメ、ユリ、キク。前の家主さんが植えた花は今も季節ごとに咲いています。

イワヒバも、ある豪雨の日、丸まった葉を広げ、濃い緑の生命力をその庭に満たしてくれました。それは、光のように明るく、台風の陰鬱を消してくれました。

「雨が降れば、わかるわ。」

ああ、私の心も、イワヒバのように、目覚めました。

生活が続いています。倉庫には現在も使える木炭が入っていました。さらに、書斎からは、古文書のような古い本が出てきました。それはまるで長い間眠っていた古い物たちが、私の生活や学びを通じて再び生き返ったようです。

中国には一つの漢詩があります。「沈んだ船の傍に、沢山の船がまた通り、枯れた木の前に、無数の木々が春を迎える」と歌われています。つまり、「古びた木々に花が咲く」。

古い物とはただの遺物ではない。時間が経っても磨耗しない、生气と希望が宿っているのです。

時の流れは確かに残酷で冷たいものですが、人と関わり、助け合い、雨がイワヒバを潤すように、愛を一生のすべての時間に注いで精一杯生きるべきだ。見よう！古木は再び花を咲かせている。

将来の私は、きっと今と同じように、人間の愛や生气にカメラを向け、ペンを取るでしょう。涙を流しながらも、決して忘れられない悲喜と失われつつある記憶を、私がしばらくの間、保管しておきます。

◆指導：金炳坤・桑名法晃・白景皓・伊東久実
(報告 伊東久実)